



あねたい はるじ 姉帯 春治 議員

問 造林3 齡級の整備進まないが

答 主伐期が多く国の予算不足

議員 造林11年以上の整備
議員 造林3 齡級(11年から15年生)以上の整備が進まないのはなぜか。
町長 町内の3 齡級以上の森林整備は、平成27年以降から減少傾向。その要因は人工林の多くが主伐期(50年生)を迎え、全県的に再造成の作業が増加し、国庫補助の予算が不足しているため。国から県に予算が配分され、県が市町村に再配分する仕組みだが、盛岡広域振興局管内では植え付け、下刈りが大部分を占め、3 齡級以上の除伐などに予算配分できない状況。町ではこの状況を踏まえ、整備が進まない森林の集積、意欲と能力のある林業事業体への橋渡しなどに努める。
森林整備状況
議員 造林整備をどのよ



森林での間伐作業

うに進めているか。
町長 町内の森林面積は約3万7000畝。最近5年間の伐採状況は年平均177畝、そのうち再造林された面積は年平均73畝で、再造林率は41%。造林事業に対する補助率は国3割、県1割だが町単独で5割10割かさ上げしていることで、45%50%となる。さらに森林経営計画が策定されているらば、最大で85%まで引き上げられる。
造林後には、「伐採及び伐採後の造林に係る森林状況報告書」の提出が義務付けられていることから、その状況を踏まえて適切な更新が行われるように森林所有者に周知したい。
森林経営管理法では「適時に伐採、造林・保育、間伐などを実施し、適切な森林管理を行うこと」が森林所有者の責務とさ

水道の整備
議員 北部地区の水道整備はいつ頃着工するのか。吉ヶ沢地区から要望があった水道未普及地域への対応は。
町長 水道事業の財政状況は、人口・世帯数の減少で料金収入が減少しており、今後非常に厳しい状況が想定される。人口動態などを踏まえた中長期的な財政計画を策定し、具体的な整備は慎重に検討する。
水道未普及地域でアンケート調査をしたところ、今のままで良いという回答がほとんどだった。引き続き地域住民の意見を聴きながら、最良の解決策を検討したい。



やまざき ひろくにひろ 山崎 邦廣 議員

問 廃校舎建物管理の考えは

答 適正に維持管理し老朽後再検討

議員 地域で利用されている廃校舎について、今後の建物管理の考えを伺う。
町長 小中学校の統合などにより廃校した施設は8施設あり、町、地域住民組織、法人等が有効に活用している。
これは「地域のシンボル」「心のよりどころ」として、地域にとって大事な「学校」を残したいとの思いから、地域住民の活動拠点の一つとして、施設や敷地の有効活用を図ってきた。
施設・設備の老朽化が進んでいるが、築年数や老朽化の状況等から、大規模改修や長寿命化対策などは予定しておらず、現況での利用を前提としている。
今後、使用に耐えられない状況となった場合、

改めて利用者や地域のニーズを伺いながら、その対応を検討したい。
人口減少が進む中においても、地域住民の皆さんが住み慣れた場所で、安全で安心に暮らせる環境を整えることが重要と考えており、その一つとして地域が主体となった活動を支えるための「地域活動拠点」の充実が必要と考えている。



旧冬部小体育館で行われた北部地区文化祭

町道周遊の活用
議員 町内の周遊に役立つ町道の活用について考え方を伺う。
町長 町の観光客入込数は、平成30年度に年間52万人を超えているが、ほとんどが通過型であり地域経済の活性化、さらなる交流人口の拡大、移住定住者の増加など地方創生推進の観点から、町内

周遊や滞在型観光に力を入れる必要がある。町が持つ自然豊かな特色を生かし、来訪者が安全安心に楽しめて、町内の周遊や滞在型観光に結びつけるには四日市地区の「こもりっこ公園」や「かくれ里」、小田地区の「真山親水公園」など、町道を活用しなければ訪れることができないような観光スポットをつないでいくことも重要であり、町道の活用や町道が担う役割は大きいと認識している。
今後、町道のさらなる活用を含め新たな観光スポットの発掘や周遊ルートの設定、幅広い年代へ効果的な情報発信など、フット面の取り組み強化や、標識などの案内板、駐車場やトイレ、休憩スポットなどのハード面での受け入れ態勢も検討し、より多くの誘客と町内周遊につなげたい。